

校長室だより

NO.12 平成28年10月31日

松原市立松原東小学校長 吉岡 英治

二十四節季 「立冬（りっとう）」

11/7頃 十月節 八節 太陽視黄経 225 度

冬の気立ち初めていよいよ冷ゆれば也（暦便覧） この日から立春の前日までが冬。日は短くなり時雨（しぐれ）が降る季節。北国や高山からは初雪の知らせも届き、関東では空っ風が吹く頃。

6年生が、10月24・25日、広島方面に修学旅行に行きました。天候にも恵まれ、カサの出番は学校へ戻って来るまでありませんでした。

平和学習では、原爆被害の悲惨さと平和のありがたさ、これからも平和な世界であるために、何を大切にしなければならないかを学びました。

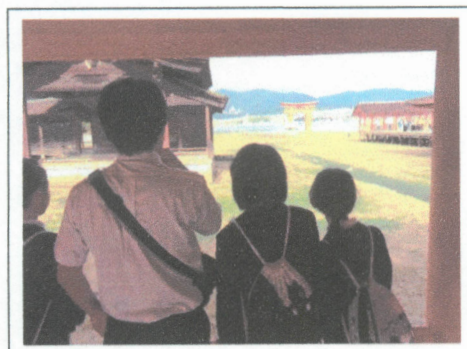
宮島では、世界歴史遺産「厳島神社」の見学し、古き昔を偲びました。あいにく、満潮ではなかったもので、回廊は海に浮かんではいませんでした（>_<）。水族館では、生き物の多様性を、実際に触れたりして、学びました。

【平和学習】原爆ドームの見学、慰霊祭、資料館の見学、平和公園内の碑巡り（ボランティアガイドさんとともに）、3名の被爆者からの聞き取り

聞き取りをさせていただいた方に、「ヒロシマの有る国」の歌を披露しました。被爆者の方の思いを出発点にして、これからの自分たちの行動を考えてくれています。聞き取りが終わり、夕食後、クラスミーティングで自分たちの身の回りのことを考えてくれました。



【宮島での活動】厳島神社の見学、みやじマリン宮島水族館の見学（宮島トンボの特別展、瀬戸内海の生き物、アシカライブ）、おみやげ購入、新幹線で帰阪。





心と身体が大きく成長するこの時期には、どう扱ったらよいか解らない感情がいろいろとわき起こってきて、本人も圧倒されてしまうことが多々あります。思春期以降は、感情の扱いは、そのまま対人関係に影響を与えてしまうことも、少なくありません。そのことは、人生の質を左右しかねないものとなります。

子どもたちに感情の扱い方を教えていくことも大人の大切な役割です。「怒りを感じても、我慢しましょう」というタイプのものではなく、自分の感情を自分のプラスになるように活用する方法です。感情には、今の状況が自分にとってどういう意味をもつものかを教えてくれる役割があります。例えば、痛みを感じると、身体に害が及んでいることを知ることができます。身体感覚と同様な機能を感情は持っています。私たちが、悲しみの感情から自分が何かを失っていることを知り、また、不安の感情から安全が確保されていないことを知ることができます。感情は、本来自分を守るための防御能力として人間に備わっているものとも考えることができます。感情には、正解・不正解はありません。感情を正確に表現できる力が、大切ではないでしょうか。子どもが、そのことを理解して、自分の感情によく触れてみて、適切な形で生かすことができるように教えていきたいものです。

今回は、「不安の上手な扱い方」